

- 口径6.5m光赤外線望遠鏡をアタカマの世界最高地点（5,640m）に建設
- 赤外線の高い窓を活用し、宇宙論から太陽系まで広範なサイエンスを実施
- 次世代を担う大学院生・若手育成を重視し、サーベイ・萌芽的研究を推進

□ 計画進展

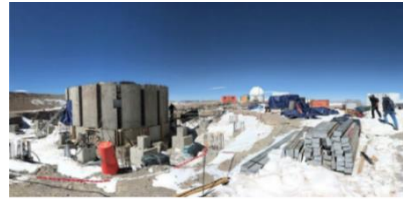
- チリ国内の新型コロナウイルス蔓延の影響（国境封鎖や許認可手続きの遅れ等）を受けて、一部作業が遅延している。
- 2022年度内ファーストライトに向けて、徹底した感染対策の下、工事を継続中。

□ 天文台開発進捗

山頂アクセス道路	工事が終了し、業者からの引き渡し手続き完了。
山頂工事	望遠鏡基礎コンクリートの接合作業中。運用棟基礎の設置完了・埋め戻し中。
望遠鏡架台	日本での仮組試験後、4月に現地保管場所に到着。保管中の強風により梱包の一部が破損したが中身には影響無し。
望遠鏡光学系	コロナの影響により米国での保管を継続。レーザートラッカーを用いた光学調整手順を検討中。
観測装置付帯設備	AG/SH 2機、装置台車、装置ケーブル巻取機構が完成。9月にチリ輸送。
エンクロージャー運用棟	日本での仮組試験後、昨年未までにほぼ全てが現地保管場所に到着。10月以降に日本人作業員による現地作業。
蒸着装置	日本での仮組試験後、5月にチリの港に到着。10月頃に保管場所へ移動。
山麓施設	観測装置作業のための大型実験棟建設を10月着工予定。



日本での仮組試験
（左上：エンクロージャー、右上：運用棟、
下：蒸着装置）
全てチリへ輸送された。



望遠鏡基礎工事



運用棟基礎工事



チリの港に到着した蒸着装置



保管場所で組立を待つ資材

□ 観測装置

- 近赤外線装置SWIMS：すばる望遠鏡にてS21Aから2年間PI装置として共同利用中。
- 中間赤外線装置MIMIZUKU：三鷹で冷却チョッパー等機能追加作業中。2022年度チリ輸送予定。
- 近赤外線エシェル分光器NICE：ファーストライト装置として三鷹でアップグレード作業中。今年度中にチリ輸送予定。

□ 本年会中の講演

- V228a「東京大学アタカマ天文台TAO 6.5m望遠鏡計画 進捗状況」宮田隆志（東京大学）
- V229a「東京大学アタカマ天文台TAO 6.5m望遠鏡用蒸着装置の性能評価」高橋英則（東京大学）
- V230a「TAO/MIMIZUKU用冷却チョッパーの開発：常温制御試験」近藤智也（金沢大学）
- V231a「TAO/MIMIZUKU用冷却チョッパーの開発：冷却動作試験」道藤翼（東京大学）
- V232a「TAO 6.5m望遠鏡用近赤外線観測装置SWIMS：すばる望遠鏡での初期観測運用報告」本原顕太郎（国立天文台/東京大学）
- V233a「近赤外線面分光ユニットSWIMS-IFU開発状況：スライスミラーアレイ+PO0の超精密切削加工とX線CTによる評価」榎引光佑（東京大学）